

A M D A など 民間支援本格化

ネパール大地震の被災者支援のため、日本から医師や看護師、災害救助を担う非政府組織（NGO）やNPOのスタッフが27日までに相次いで現地入り、日本の民間支援が本格化し始めた。

日本赤十字社は医師や看護師ら数人を派遣。国際医療援助団体「A M D A」（岡山市）は看護師ら2人を、医療法人徳洲会の医師らでつくるNPO法人「T M A T」も医師ら4人を送った。

赤十字によると、首都カトマンズの病院は機能しているものの、患者の受け入れ能力が限界に近づきつつあるという。

NGO「ピースウィンズ・ジャパン」からは昨年8月の広島土砂災害でも活躍した災害救助犬やスタッフが出発。現地では水や毛布

などの支援物資を配布する予定だ。

南アジアで農村開発や児童労働削減に取り組むNPO法人「シャプラインール」市民による海外協力の会「

（東京都）も支援に着手。

小松豊明事務局長は「首都以外の被災状況がほとんど分からないが、震源地近くにも多くの人が暮らしている」と話し、バン格拉デシ

ユなど周辺国から震源地周辺に向けて陸路で日本人スタッフを派遣した。

小松事務局長によると、間もなく雨期に入るネパールでは、二次災害が懸念されるほか、屋外で避難生活を送る人たちにテントなどの物資が必要になるとい

う。